# 第５回 厳木川中島地区かわまちづくり協議会　議事概要

日　時：令和７年５月 15 日（木）　15：00～15：50
場　所：唐津市厳木市民センター
出席者：出席者名簿のとおり。

**議事概要**

**1.　要綱の改定**

- 事務局より資料-1 を用いて協議会の要綱の改定案について説明し、協議会名簿の変更について委員からの了承を得た。
- 要綱は令和７年５月 15 日改定。

**2.　議事内容**

- 事務局より資料-2 を用いて、第４回協議会から第８回ワークショップまでの経過と協議内容として令和６年度を振り返るともに、令和７年度の目標と進め方について説明した。詳細設計を実施しつつ、本格工事に向けて一部工事にも着手していくことを確認した。
- 令和７年度は、事務局案のとおり各取り組みを進めることとし、ワークショップについては、昨年度に引き続き、可能な限り吉田喜美明先生のご参加とご助言をいただきながら進めることについて了承した。
- 議事内容について、委員からは以下の意見をいただいた。

議事内容に関する意見

| 意見 | 意見 | 事務局回答 |
|---|---|---|
| ① | ・川辺の遊歩道について、園児たちを歩かせたいので、川との距離感等、どのようなイメージの整備となるのか教えてほしい。 | ・園児を乗せたカートや車いすの利用者も利用できるようなスロープの勾配や散策路をワークショップの中で議論しながら検討している。散策路は軽トラックが通る 3m ぐらいの道幅で、坂路の出入り口には車止めなどの対策をし、必要な場合だけ車両が入るような形式で調整している。 |
| ② | ・かわとまちづくりがメインテーマであり、保健センターは残っていくと思われるため、厳木ダムができた今でも相当な魚類が生息しているこの環境を子供たちが体験し、環境問題を考えられるような施設として、淡水魚の水族館のようなものを作ってはどうか。 | ・今後のワークショップ等での議論や、国土交通省と相談して、やれる範囲でやっていきたいと思うが、まずは自然環境を壊さないことを第一に考えて事業を進めていきたい。 |
| ③ | ・オオカナダモの除去は毎年行う必要があるが、手弁当だけでは限界がある。川をきれいに保つための方法や維持管理作業のための国・県・市の補助金や支援について、今後も教えていただきたい。 | ・承知した。 |

### 3.　その他

- 令和 7 年度佐賀県 KAWARU チャレンジ事業募集要項の情報提供。

**開催状況**

会長挨拶

協議会の様子

協議会の様子

協議会の様子（質疑応答）

協議会の開催状況

# 第５回　厳木川中島地区かわまちづくり協議会

日時：令和７年５月 15 日（木）15：00～
場所：唐津市厳木市民センター

## 議事次第

1.　開会

2.　挨拶

3.　要綱の改定について（委員の変更）　【資料-1】

4.　議事

【資料-2】

①　第４回協議会からの経過と協議内容（R6 年度の振り返り）
②　今年度の進め方について
　・スケジュール（案）
　・一部工事着手予定箇所の紹介
③　質疑応答

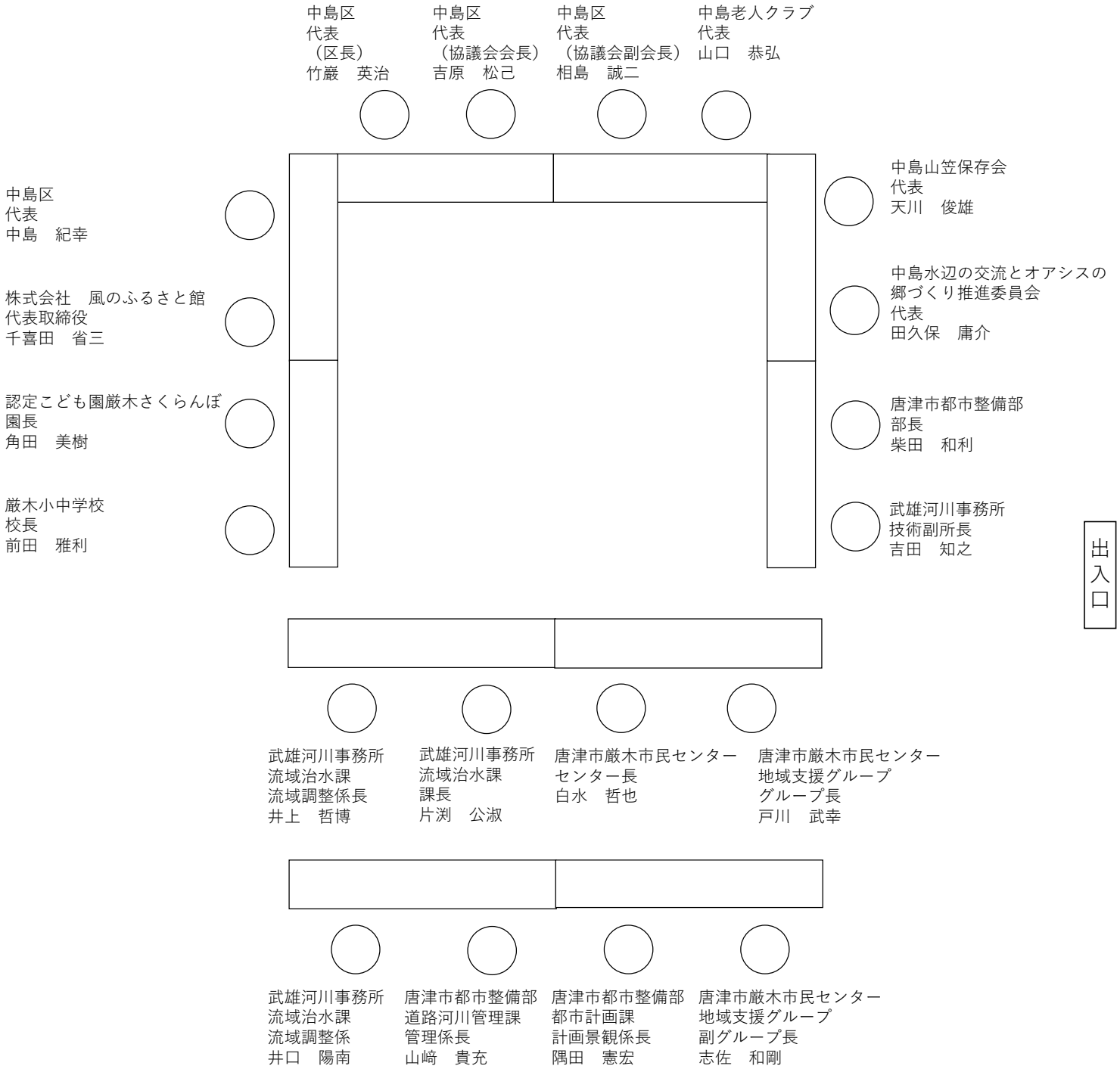
5.　その他
①　令和７年度佐賀県 KAWARU チャレンジ事業の募集（情報提供）

6.　閉会

# 第5回　厳木川中島地区かわまちづくり協議会

## 配席図

日時：令和7年5月15日（木）15：00～
場所：厳木市民センター大会議室



# 出席者名簿

第５回　厳木川中島地区かわまちづくり協議会

日時　令和７年５月１５日（木）１５時～

場所　厳木市民センター大会議室

| 区分 | 所属 | 役職 | 氏名 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 委員 | 中島区 | 代表 | 吉原　松己 | （協議会会長） |
| 委員 | 中島区 | 代表 | 相島　誠二 | （協議会副会長） |
| 委員 | 中島区 | 代表 | 竹巖　英治 | （区長） |
| 委員 | 中島区 | 代表 | 中島　紀幸 | （理事） |
| 委員 | 中島区 | 代表 | 田久保　貴章 | 欠席 |
| 委員 | 中島老人会クラブ | 代表 | 山口　恭弘 | |
| 委員 | 中島山笠保存会 | 代表 | 天川　俊雄 | |
| 委員 | 中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会 | 代表 | 田久保　庸介 | （事務局次長） |
| 委員 | 中島壮年部 | 代表 | 小浜　義博 | 欠席 |
| 委員 | 株式会社　風のふるさと館 | 代表取締役 | 千喜田　省三 | 欠席 |
| 委員 | 厳木小中学校 | 校長 | 前田　雅利 | |
| 委員 | 認定こども園厳木さくらんぼ | 園長 | 角田　美樹 | |
| 委員 | きゅうらぎデザイン | 代表 | 竹花　奈美子 | 欠席 |
| 委員 | 唐津市都市整備部 | 部長 | 柴田　和利 | |
| 委員 | 武雄河川事務所 | 技術副所長 | 吉田　知之 | |
| 事務局 | 唐津市厳木市民センター | センター長 | 白水　哲也 | |
| 事務局 | 唐津市厳木市民センター　地域支援グループ | グループ長 | 戸川　武幸 | |
| 事務局 | 唐津市厳木市民センター　地域支援グループ | 副グループ長 | 志佐　和剛 | |
| 事務局 | 武雄河川事務所　流域治水課 | 課長 | 片渕　公淑 | |
| 事務局 | 武雄河川事務所　流域治水課 | 流域調整係長 | 井上　哲博 | |
| 事務局 | 武雄河川事務所　流域治水課 | 技官 | 井口　陽南 | |
| 唐津市 | 唐津市都市整備部　都市計画課　計画景観係 | 係長 | 隅田　憲宏 | |
| 唐津市 | 唐津市都市整備部　道路河川管理課　管理係 | 係長 | 山﨑　貴充 | |

資料－１

# 厳木川中島地区かわまちづくり協議会　要綱（改定案）

（名称）

第１条　本協議会は「厳木川中島地区かわまちづくり協議会」（以下「協議会」という）と称する。

（目的及び設置）

第２条　協議会は、厳木川が流れる唐津市、関係団体及び地元住民と厳木川を管理する国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所が相互に連携し、厳木川（中島地区）の水辺に河川空間とまちの空間が融合した魅力ある地域を創出する取組を実現するため、今後の方向性及び具体的な手法、維持管理等を検討・推進することを目的に設置する。

（協議会の構成）

第３条　協議会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

（会長及び副会長）

第４条　協議会には会長、副会長を置くこととし、委員の互選によりこれを定める。

２　会長は協議会の運営と進行を総括し、協議会を代表する。

３　会長が事故等の理由により出席できない場合には、副会長もしくは会長があらかじめ指名する者が職務を代行する。

（協議会の招集・開催）

第５条　協議会の招集・開催は事務局が行う。

２　協議会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

（意見の聴取）

第６条　会長は、必要があると認めるときは、別表に掲げるもの以外に会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

（協議会の公開）

第７条　協議会資料及び議事要旨については、原則、公開する。

（ワーキンググループの設置）

第８条　協議会の円滑な運営に資するため、ワーキンググループを設置することができる。

２　ワーキンググループは、事務局が必要に応じて招集・開催する。

３　ワーキンググループは、かわまちづくりに係る関係団体・地域住民・行政機関等の意

見を聴取し、かわまちづくりの各種調査・計画・維持管理等の検討・調整を行い、その結果について協議会に報告する。

（事務局）

第９条　協議会の事務局は、佐賀県唐津市厳木市民センター地域支援グループ及び武雄河川事務所流域治水課に置く。

（要綱の改正）

第１０条　本要綱の改正は、協議会委員総数の過半数の同意をもってこれを行う。

（雑則）

第１１条　本要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附則

（施行期日）

この要綱は、令和５年１１月１５日から施行する。

令和６年８月７日改定

令和７年５月１５日改定

別表

厳木川中島地区かわまちづくり協議会　名簿

| 委員区分 | 氏名 | 所属 | 役職 |
|---|---|---|---|
| 地元住民代表及び地域関係団体等 | 吉原　松己 | 中島区 | 代表 |
| | 相島　誠二 | 中島区 | 代表 |
| | 竹巖　英治 | 中島区 | 代表 |
| | 中島　紀幸 | 中島区 | 代表 |
| | 田久保　貴章 | 中島区 | 代表 |
| | 山口　恭弘 | 中島老人クラブ | 代表 |
| | 天川　俊雄 | 中島山笠保存会 | 代表 |
| | 田久保　庸介 | 中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会 | 代表 |
| | 小浜　義博 | 中島壮年部 | 代表 |
| | 千喜田　省三 | （株）風のふるさと館 | 代表取締役 |
| | 前田　雅利 | 厳木小中学校 | 校長 |
| | 角田　美樹 | 認定こども園厳木さくらんぼ | 園長 |
| | 竹花　奈美子 | きゅうらぎデザイン | 代表 |
| 行政団体 | 柴田　和利 | 唐津市都市整備部 | 部長 |
| | 吉田　知之 | 国土交通省・九州地方整備局武雄河川事務所 | 技術副所長 |

資料-2

# 第5回

# 厳木川中島地区
# かわまちづくり協議会

令和７年５月15日

佐　賀　県　唐　津　市

九州地方整備局武雄河川事務所

# 第４回協議会から第８回ワークショップまでの経過と協議内容（R6年度の振り返り）

# 1．厳木川中島地区かわまちづくり　令和６年度の目標と実施

【目標】

① 生物の生息環境保全・創出等に向けた調査検討・設計を進める。

- ◆ ゲンジボタルや魚類の現地勉強会（ワークショップ）を開催し、学識者の意見を聞きながら、保全や創出の方向性などを議論する。
- ◆ 実際に現地に石を試験的に配置して、水や土砂の流れを確認し、設計・検討へ反映させる。
- ◆ ゲンジボタルや魚類の生息環境等を把握する調査を実施する。
- ◆ かわまちづくりの検討・設計を進め、条件や結果をワークショップで議論して協議会で承認を頂く。

② 地域の将来を担う小学生等が環境学習や水遊びの場として利活用してもらえるような現地学習会を行う。

③ Ｒ７年度からの事業化（予算化）に向けた計画手続きを完了させる。

【スケジュール】

- 6/7 計画書申請（唐津市→九州地方整備局）
- 6/28 計画書申請（九州地方整備局→国土交通本省）
- 7/3,4 厳木高校体験学習（前期）
- 8/7 第４回協議会（計画書最終・進め方の説明）
- 8/8 計画書登録（国土交通本省）
- 9/3 生物調査（カワニナ・魚類等）
- 9/4 厳木小学校環境学習会
- 9/8 第６回ワークショップ（学識者合同の現地勉強会）
- 9/24 登録証伝達式（国土交通本省→唐津市）
- 10/21 学識者懇談会（事業化の審議・武雄河川事務所）
- 10/24 現地水制工配置試験
- 10/31 事業評価監視委員会（審議結果の報告・九州地方整備局）
- 11/27,28 厳木高校体験学習（後期）
- 11/30 12/1 九州「川」のワークショップ（取り組みを九州で発表）
- 1/19 第７回ワークショップ（設計条件の議論）
- 3/16 第８回ワークショップ（整備具体案の議論）
- R7.4 厳木川中島地区かわまちづくり事業化（予算化）

# 2．第４回協議会の開催概要

## ■開催概要

●日時：令和６年８月７日（水）

●会場：唐津市厳木市民センター

●参加者：協議会委員１４名　他

会長挨拶

協議会の様子

協議会の様子

## ■議事概要

●議事

①第１回協議会から第３回協議会までの経過と協議内容（R5 年度の振り返り）
②かわまち計画書（最終）について
③今年度の進め方について
・スケジュール（案）
・吉田喜美明先生の第６ 回ワークショップへの参加依頼とゲンジボタル等の現地勉強会の開催

●主な意見

①環境学習会の開催場所について、オアシス前はオオカナダモを除去するなど川遊びができるように整備している状況なので、オアシス前で開催してはどうか。

②厳木川で生物の調査を実施されていたようだが、国の事業での実施なのか。また、その場合は、調査結果を報告していただきたい。

③今回、学識者との勉強会を実施することはとても重要だと思う。勉強会の中では、外来種であるオオカナダモに関する内容を入れていただきたい。

④令和６年度については、これまでと異なり具体的な内容に関して協議していくような計画になっており、参加する側としても意見が出しやすくなる。かわまちづくりを確実に推進していきたい。

# 3．厳木小学校環境学習会

■ 実施日：令和６年９月４日（水）

■ 内　容：地域の将来を担う子ども達のかわまちづくりへの意見反映や環境教育の場としての活用を目的として、厳木小学校の児童を対象とした環境学習会を開催した。

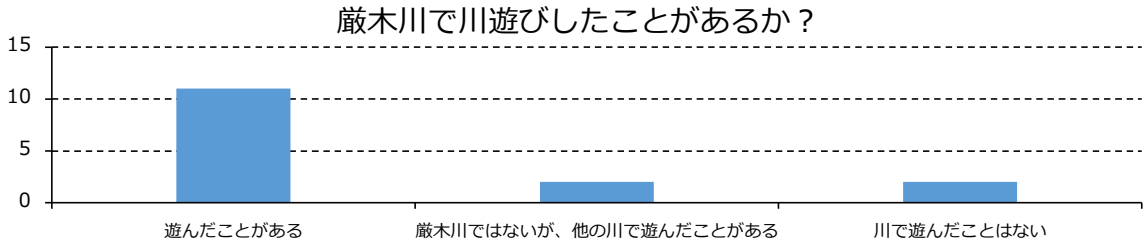
■ タモ網を使った魚類捕獲・解説、川流れ体験（川の安全教育）を実施した。

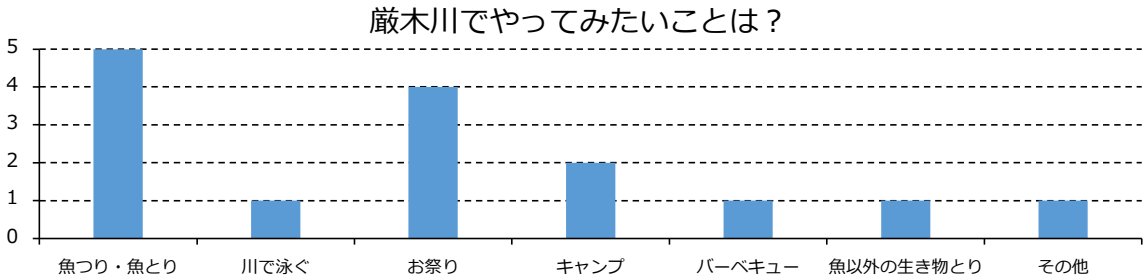
魚捕り体験

川流れ体験

捕れた魚の確認

魚の解説




## 子どもたちの主な意見等

- 厳木川で遊んだことのある子どもが多かった。
- 魚捕りや生き物捕りなど、川で遊ぶ意見のほか、祭やキャンプ、BBQなど河原を使った遊びの希望が多かった。
- 嫌だったこととして、「草がたくさん生えていること」、「石がゴロゴロしていて歩きづらいこと」などが挙げられた。

# ４．第６回ワークショップの開催概要

## ■開催概要

- ●日時：令和６年９月８日（日）
- ●会場：中島集会所
- ●参加者：２３名

## ■実施概要

- ●全体説明
- ●かわまちづくり計画登録報告
- ●勉強会（吉田喜美明先生）

　ゲンジボタル等の生態や生息環境等の説明

- ●現地視察（新中島橋周辺）
- ●魚類の捕獲体験

吉田喜美明先生

**▼吉田喜美明先生プロフィール**

- ●吉田喜美明先生
- ●環境学、生物学の研究者
- ●佐賀の生き物博士
- ●佐賀県唐津市の元中学校校長先生
- ●唐津の生き物や植物等について写真を交えてまとめた「唐津の自然」を執筆
- ●現在も現役で松浦川を中心にモクズガニ等の調査・研究で精力的に活動中

**▼講義と捕獲体験での先生のご意見**

**《ゲンジボタルの生息環境》**

・新中島橋から今村堰までの左岸（オアシス）は、コンクリートの護岸ではなく土砂や砂でできた天然の河岸であり、ゲンジボタルの生息環境が整っている。現段階では護岸を整備せず、蛹化場所となる土の河岸を保全した方が良い。

・ゲンジボタルは、生息地域によって光り方などの特性が異なり、別の場所から持ってきても繁殖が上手く行かず、数年でいなくなってしまう。生物全般に言えるが、ゲンジボタルもヘイケボタルもカワニナも他の地区から移入してはいけない。

**《オオカナダモの除去》**

・オオカナダモは、魚類にとって隠れ場となる良い点もあるが、地域の景観や利用する上で困っているのであれば、地域として除去しても良いのではないか。

**《ヨシ刈りの時期とゲンジボタルへの影響》**

・ヨシは、ゲンジボタルの幼虫が陸上生活に入る3月から土中の水分量を一定に保つために必要であり、成虫が飛翔・産卵する6月まで生息場として必要であるため、場所によってはこの期間の伐採を避けた方が良い。

・維持管理や景観上で刈る必要がある場合は、ゲンジボタルが陸上生活に入る3～6月は避けて、7～2月に刈れば影響は小さいと考えられる。

勉強会

魚類の捕獲体験

集合写真

# 5．かわまちづくり計画の登録及び伝達式

- 令和６年８月８日に支援制度に登録された「厳木川中島地区かわまちづくり計画」について、令和６年９月２４日に登録証の伝達式を開催した。
- 伝達式には、唐津市長、厳木川中島地区かわまちづくり協議会の会長及び副会長に参加していただいた。

厳木川中島地区かわまちづくり計画

上は「かわまちづくり」支援制度実施要綱第7 に基づき登録したことを証する。

令和 6 年 8 月 8 日

国土交通省　水管理・国土保全局長

登録証

唐津市公式チャンネルで放送

唐津市長挨拶

# ６．事業評価の手続き（学識者懇談会・事業評価監視委員会）

- 令和６年１０月２１日、令和７年度からの事業化（予算化）にあたって、事業実施の審議を行う学識者懇談会を開催した。
- 事業の効果等について審議を行い、事業実施の了承を頂いた。
- 審議結果を九州地方整備局事業評価監視委員会（令和６年１０月３１日開催）に報告した。

嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会　委員名簿

| 氏 名 | 所 属・役 職 | 分 野 |
|---|---|---|
| おおぐし　こういちろう<br>大串浩一郎 | 佐賀大学理工学部　教授 | 水工学 |
| おしかわ　ひでお<br>押川英夫 | 佐賀大学理工学部　教授 | 水工学 |
| かとう　おさむ<br>加藤治 | 佐賀大学　名誉教授 | 農業水利 |
| こが　けんいち<br>古賀憲一 | 佐賀大学　名誉教授 | 水環境 |
| ごとう　りゅうたろう<br>後藤隆太郎 | 佐賀大学理工学部　教授 | 景観 |
| しげふじ　てるゆき<br>重藤輝行 | 佐賀大学芸術地域<br>デザイン学部　教授 | 文化財 |
| たきかわ　きよし<br>滝川清 | 熊本大学　名誉教授 | 海岸環境・防災工学 |
| たしま　まさとし<br>田島正敏 | 元　佐賀県立鹿島高等学校<br>副校長 | 魚類 |
| とくだ　まこと<br>徳田誠 | 佐賀大学農学部　教授 | 河川生物 |
| やまにし　ひろゆき<br>山西博幸 | 佐賀大学理工学部　教授 | 環境工学 |
| やまもと　ちょうじ<br>山本長次 | 佐賀大学経済学部　教授 | 経済学 |

五十音訓、敬称略

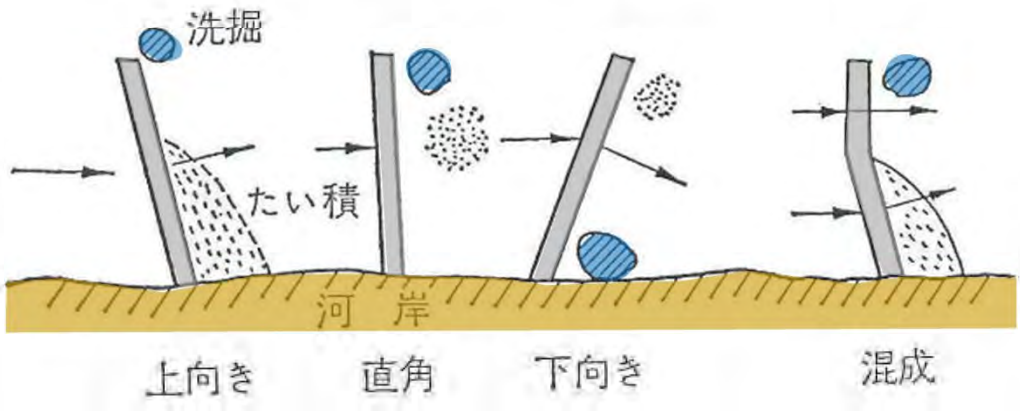
<懇談会の主な意見>
　住民の方々等による維持管理が継続され、効果が持続して発現できるように、引き続き、住民の方々等との協力体制の確保や地域の思いを把握することに努めていただきたい。

# 7．現地水制工配置試験

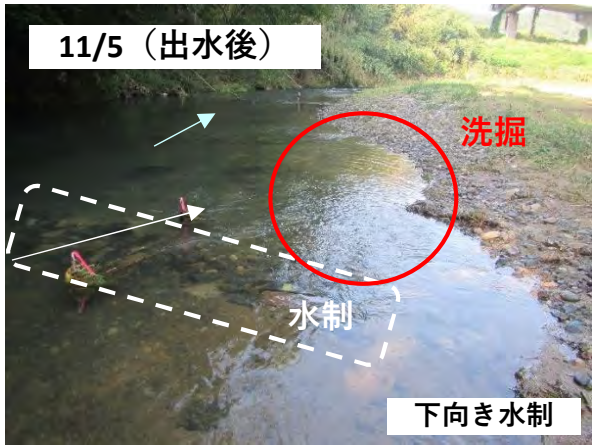
- 令和６年１０月２４日、整備メニューとして予定している水制工（石積み）について、今後の設計等に反映させるため、実際に一部試験的に配置し、その効果、水や土砂の動きを武雄河川事務所職員で確認した。
- 現在、土砂の堆積状況等の確認を行っており、その結果を今後のかわづくり設計に活用していく予定。

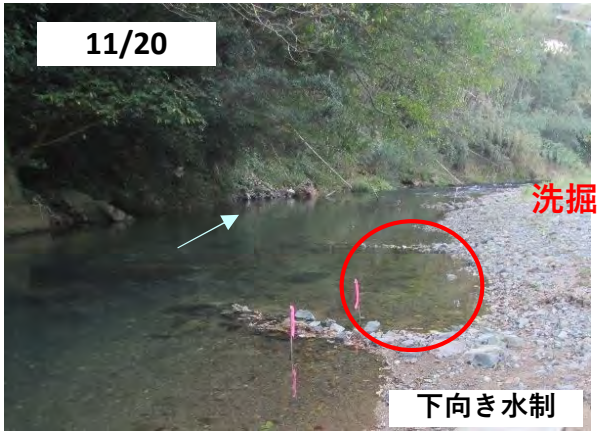
配置状況

配置後の流れの確認




水制工の種類と機能



# ８．厳木高校体験学習

■ 実施日：令和６年１１月２７日（水）、２８日（木）

■ 内　容：地元の厳木高校生に対して、厳木川中島地区かわまちづくりの取り組みを紹介するとともに、実際に水辺を歩いて、現在に対しての自由な意見を頂いた。

■ 主な意見

| 良いところ | 悪いところ |
|---|---|
| ■ 水がきれいで自然豊かに感じる<br>■ ゴミが無かった<br>■ 水辺に入りやすい、散歩しやすい<br>■ 駐車場が近く使いやすい<br>■ 川がきれいで歴史や文化を感じた<br>■ 雨が降っていたが、水がきれいだった<br>■ 友達と来たら楽しそう、泳ぎたい<br>など | ■ 草が多い<br>■ 石が大きい、足場が悪く歩きにくい<br>■ 案内看板が無い<br>■ 少しゴミがあった<br>■ 階段に手すりが無かった<br>■ トイレが周りから見えるし汚い<br>■ あまり歩けるところが無い<br>など |

■ 実施状況

# ９．九州「川」のワークショップ

■ 実施日：令和６年１１月３０日（土）、
　　１２月１日（日）　九州「川」のワーク
　　ショップ　in　長崎

■ 内　容：九州内の川で活動する約40の団体が発表を
　　行った

■ 中島地区からも「中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会」に参加いただき、かわまちづくりに向けた取組について発表していただいた。

発表状況

発表状況

パネル説明状況

# １０．第７回ワークショップの開催概要

## ■開催概要

- ●日時：令和７年１月１９日（日）
- ●会場：中島集会所
- ●参加者：２７名

## ■実施概要

- ●全体説明

　階段や散策路などの整備施設の設計条件案の説明

- ●グループワーク

　厳木コミュニティセンターエリア、川リンピックエリア、どんど焼きエリアの３つのエリア毎に整備施設の基本的な条件を議論

- ●各グループの発表・全体とりまとめ

グループワーク結果（一例）

グループワーク

グループワーク

発表

集合写真

# １１．第８回ワークショップの開催概要

## ■開催概要

- ●日時：令和７年３月１６日（日）
- ●会場：中島集会所
- ●参加者：２８名

## ■実施概要

- ●全体説明

　コミュニティセンター前スロープ、散策路、今村堰下流のスロープの３か所の整備案の説明

- ●現地視察・グループワーク

　整備施設の予備設計について現地で確認

- ●各グループの発表・全体とりまとめ

予備設計の説明

現地確認

グループワーク

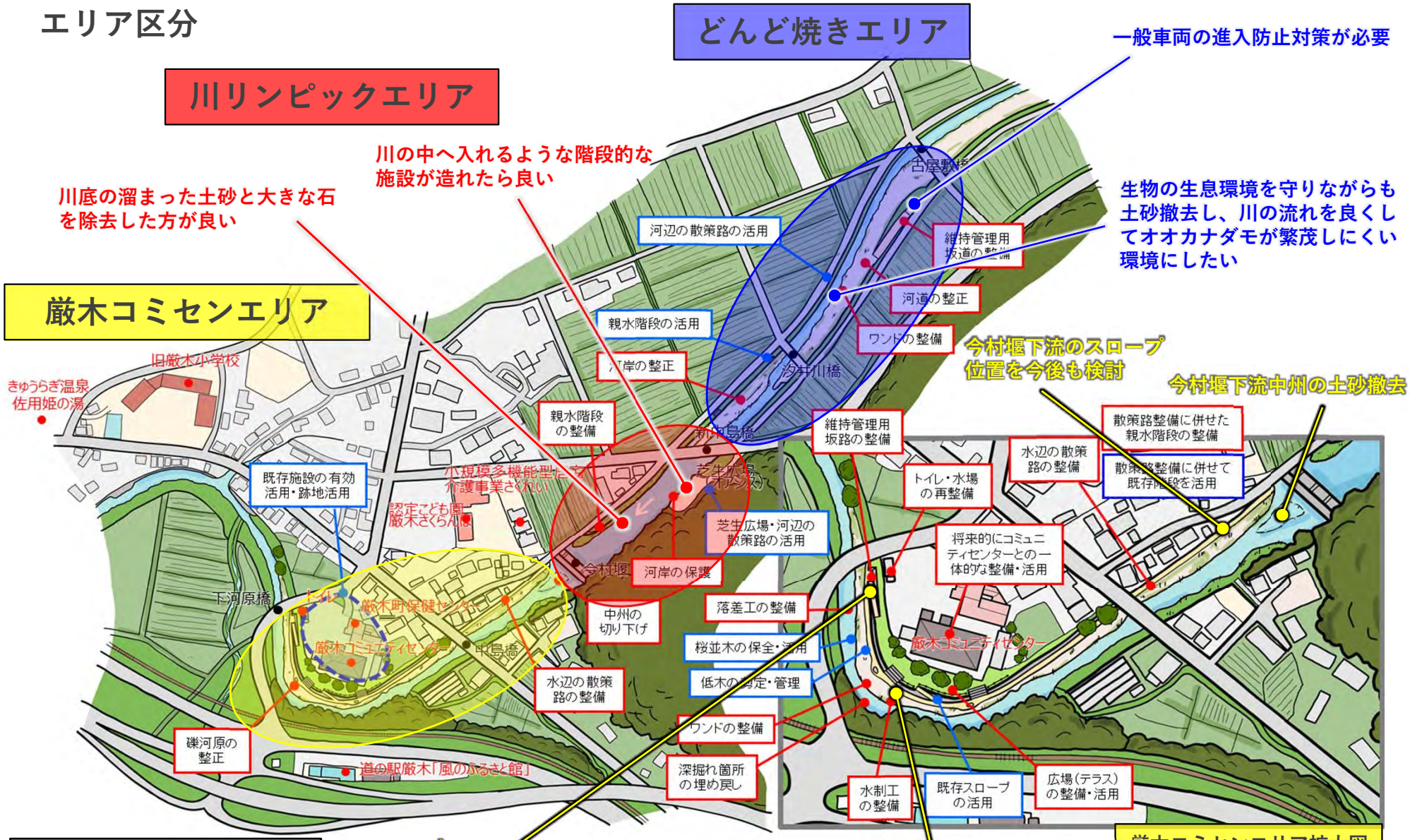
グループワーク

発表

集合写真

# １２．第７回、第８回ワークショップの主な意見

## エリア区分



# 厳木川中島地区かわまちづくり
# 今年度の進め方

# １３．厳木川中島地区かわまちづくり　今年度の進め方（案）

【目標（案）】

① 生物の生息環境保全・創出等に向けた調査検討・設計を進める。

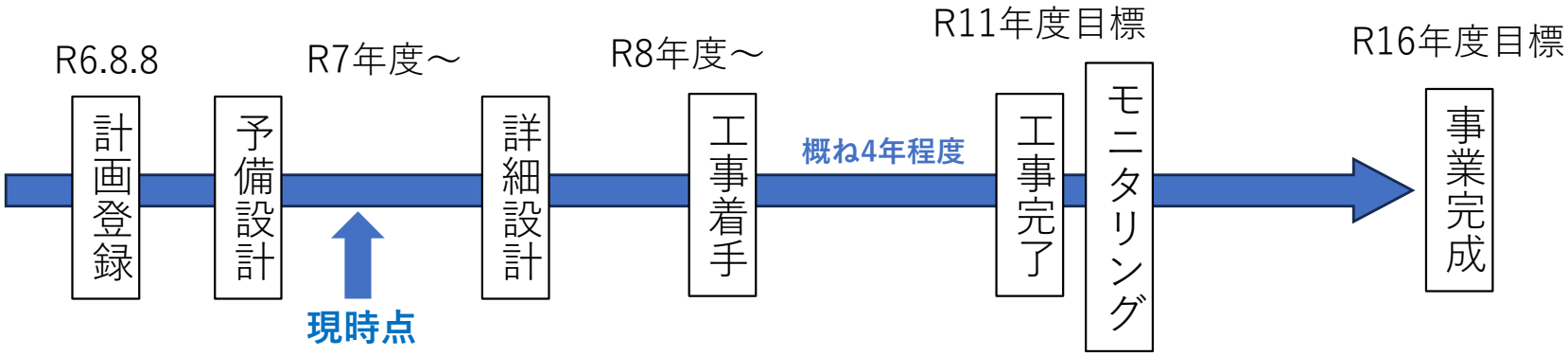
② 地域の将来を担う小学生等が環境学習や水遊びの場として利活用してもらえるような現地学習会を行う。

継続目標

③ 詳細設計を実施しつつ、本格工事に向けて一部工事にも着手していく。　新規目標

◆ Ｒ７年度から事業化（予算化）が実現し、本格的に「かわまち」整備がスタートする。

【事業の主な流れ】




計画、予備設計、詳細設計へと、工事着手に向けて段階的に精度を上げていく

意見反映

ワークショップ、協議会

【注意】
設計の結果については、今後もワークショップや協議会で議論するだけではなく、
国の内部でも審査を行い決定していく。

# １３．厳木川中島地区かわまちづくり　今後のスケジュール（案）

■ 今年度の実施内容について、特に中島地区や関係団体の方々にご参加、ご協力頂きたい取り組みは下記の通りとなっている。

| 開催時期 | 名称 | 討議・実施内容等 |
|---|---|---|
| R7.5/15(木) | 第5回協議会 | ■ 規約の確認及び改定<br>■ 前回までの振り返り、今年度の進め方（案）の説明 |
| R7.6/18(水)<br>6/19(木) | 厳木高校体験学習（前期） | ■ 事業の説明と現地散策<br>■ かわまちづくりに対する意見聴取 |
| R7.7月上旬 | 第9回ワークショップ | ■ 予備設計結果の議論（必要に応じて現地を確認しながら議論） |
| R7.7/20(日) | オオカナダモ除去作業 | ■ 川リンピック開催のための維持管理 |
| R7.7/27(日) | 川リンピック | ■ 川遊び体験　他 |
| R7.7月下旬 | 第6回協議会 | ■ 予備設計結果の説明と承認（詳細設計へ） |
| R7.9月上旬 | 厳木小学校環境学習会（案） | ■ 魚類・底生動物等の捕獲体験<br>■ 川流れ体験（川の安全教育） |
| R7.10月上旬 | 第10回ワークショップ | ■ 詳細設計の条件の議論（必要に応じて現地を確認しながら議論） |
| R7.10月下旬 | 厳木高校体験学習（後期） | ■ 事業の説明と現地散策<br>■ かわまちづくりに対する意見聴取 |
| R8.12月下旬 | 第11回ワークショップ | ■ 詳細設計内容等の議論①（第10回WS結果を設計に反映）<br>（必要に応じて現地を歩いて議論する） |
| R8.2月上旬 | 第12回ワークショップ | ■ 詳細設計内容等の議論②（第12回WS結果を設計に反映）<br>（必要に応じて現地を歩いて議論する） |
| R8.3月上旬 | 第7回協議会 | ■ 第10回～第12回WS結果の報告、質疑応答 |

**※ワークショップは、昨年度に引き続き、可能な限り吉田喜美明先生のご参加とご助言を頂きながら行っていきたい。**

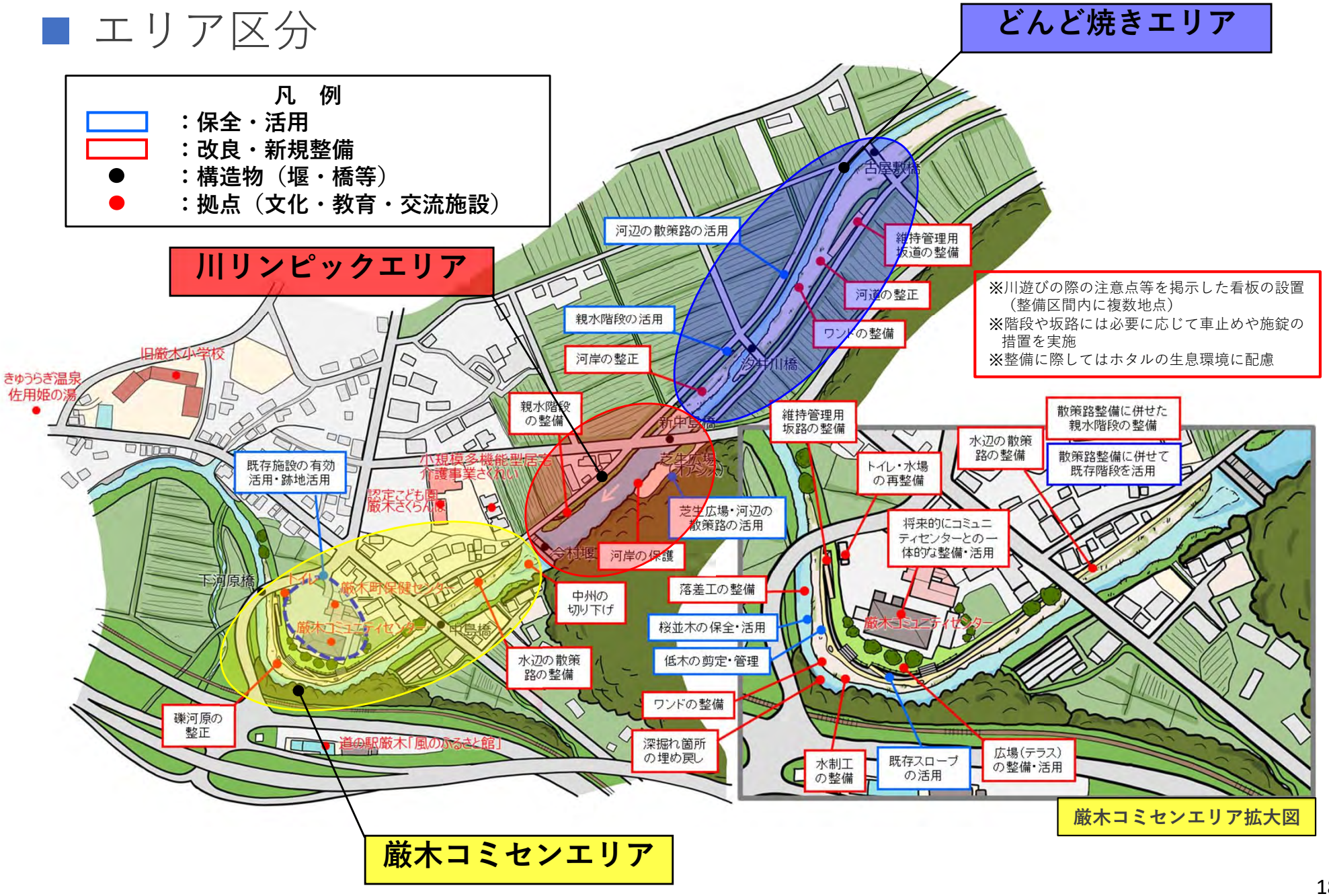
# １４．厳木川中島地区かわまちづくり　一部工事着手予定箇所

既設の階段部周辺の一部河道整正を行って水際に近づきやすくするとともに、整正後の土砂の浸食や堆積状況を調査して、今後の散策路や河道整備の検討・設計への知見とする予定。

一部工事の予定箇所や内容は、今後の議論や検討で変わる可能性がある。

# 【参考】厳木川中島地区かわまちづくり計画　整備イメージ【全体】

## ■ エリア区分



# 【参考】整備メニュー（案）と利活用①（厳木コミセンエリア）

- コミュニティセンター前では、礫河原を整正し、散策路を整備することで**川遊びや環境学習に活用しやすい場**となる他、広場（テラス）・トイレ（水場）を整備することで、**地域の方々がイベントや休憩、ホタル観賞などで活用していただく**ことが期待される。
- イベントや美化活動を通じ地域の熱意が上がり、人を呼び込みたい流れが生まれれば、**広場を活用したマルシェやキャンプ等の活用**も想定される。

## ■現況写真

護岸上部は鬱蒼として見通しが悪い。

水際に落差があり近づきにくい。

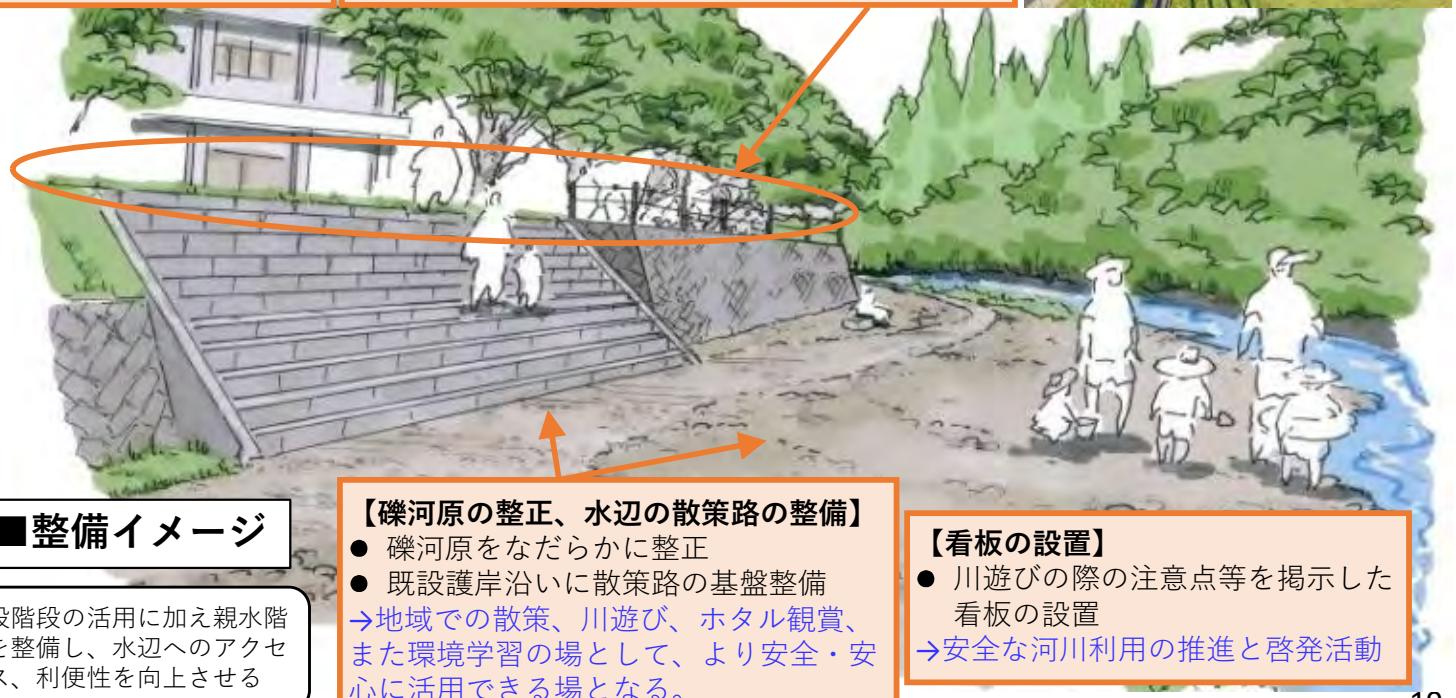
**【トイレ（水場）の整備】**
- 水場としての活用も可能なトイレの整備

→地域でのイベント、休憩等での活用
→トイレ（水場）があることで将来的な広場活用（BBQ、キャンプ等）にもつながる。

**【広場（テラス）の整備】**
- 既存樹木の間引き（中低木の伐採）、安全柵や看板・ベンチの設置、芝張り（または舗装）による広場整備

→地域でのイベント、休憩、花見、ホタル観賞等での活用
→将来的にBBQ、キャンプ、マルシェ等、人を呼び込む場としての活用も可能

テラスのイメージ
（白川：熊本市）



## ■整備イメージ

既設階段の活用に加え親水階段を整備し、水辺へのアクセス、利便性を向上させる

**【礫河原の整正、水辺の散策路の整備】**
- 礫河原をなだらかに整正
- 既設護岸沿いに散策路の基盤整備

→地域での散策、川遊び、ホタル観賞、また環境学習の場として、より安全・安心に活用できる場となる。

**【看板の設置】**
- 川遊びの際の注意点等を掲示した看板の設置

→安全な河川利用の推進と啓発活動

# 【参考】整備メニュー（案）と利活用②（川リンピック・どんど焼きエリア）

- 古屋敷橋から下流の河道では、河岸の堆積土砂を整正し、坂路等を整備することで河道内や水際へのアクセスを容易とする。川リンピックやどんど焼きなどの地域のイベントや普段の川遊びでの活用が期待される。
- これまでどおり、河岸沿いの道路は、普段の散策やホタル観賞等に活用していただく。
- イベントや美化活動を通じ、地域の熱意が上がり、人を呼び込みたい流れが生まれれば、水辺などを活用したイベントによる地域興しへの発展も期待される。

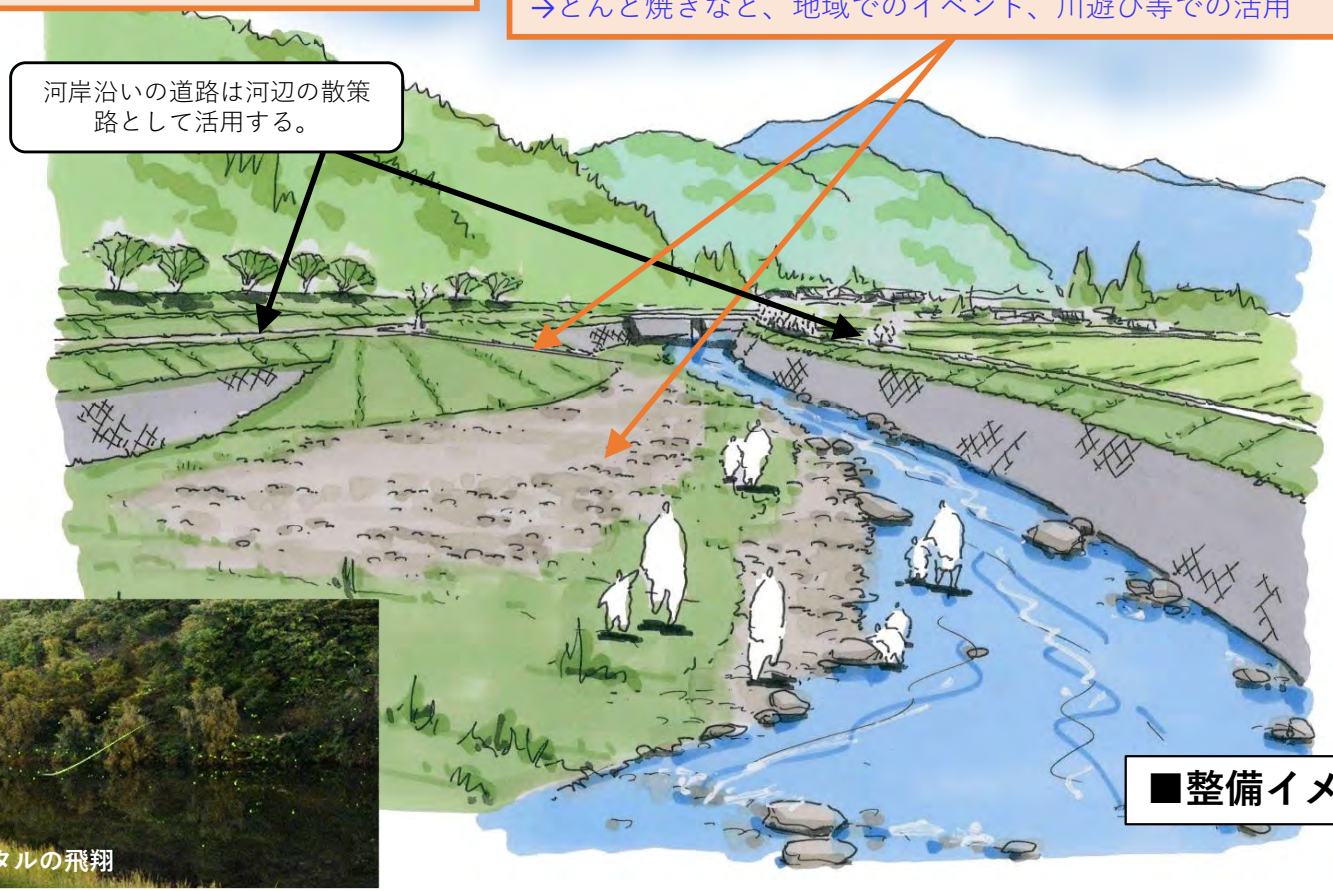
## ■現況写真

**【看板の設置】**
- 川遊びの際の注意点等を掲示した看板の設置

→安全な河川利用の推進と啓発活動

**【河岸の整正】**
- 堆積土砂の撤去、水際に近づきやすいなだらかな河岸の整備
- 河岸沿いの道路から河道内へのアクセスを容易にする坂路や親水階段の整備（既存の階段の活用を含む）

→どんど焼きなど、地域でのイベント、川遊び等での活用




■整備イメージ

# 厳木川中島地区かわまちづくりワークショップニュース 6号

厳木川中島地区では、「かわ」と「まち」が一体となったかわまちづくりを目指し、住民の皆さんとともにかわまちづくり計画をつくってきました。今後は、かわまちづくり計画の実現に向けた具体的な整備内容について話し合っていきます。
この「ワークショップニュース」では、その様子をお知らせしていきます。今回は第6号です！

## かわまちづくりとは

- ✓ 「かわまちづくり」とは、『河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取り組み』のことです。
- ✓ かわまちづくりでは、地域らしさを活かした水辺や賑わいのある水辺、暮らしに寄り添う水辺がうまれています。
- ✓ かわまちづくりには支援制度があり、この制度に基づく**「厳木川中島地区かわまちづくり計画」が、令和6年8月8日に新規登録**されました！

▼登録証

## 第6回 「厳木川の生き物を知ろう！～大人版・環境学習会～」

### 実施概要

吉田喜美明先生により、ゲンジボタル・カワニナの生態、ホタルの生態と整備メニューの関係について、説明・学習を行っていただきました。
その後、魚類・水生昆虫の捕獲体験も行いました。

**日時：令和6年9月8日（日）**
**10：00～12：30**
**場所：中島集会所**
**参加者：23名**

プログラム

| | |
|---|---|
| 10：00 | 開会 |
| 10：05 | 全体説明<br>・本日の開催目的<br>・本日のプログラム<br>・今後のスケジュール（案） |
| 10：10 | 勉強会<br>・ゲンジボタル等の生態や生息環境等の説明 |
| 10：45 | 現地視察<br>・新中島橋周辺の現地視察 |
| 11：10 | 魚類の捕獲体験 |
| 11：45 | 捕獲結果確認<br>・中島地区に生息する魚類について学ぶ |
| 12：25 | 会長挨拶 |

# 魚類・水生昆虫に関する講義と捕獲体験

**厳木川に生息する生き物についての講義と捕獲体験を行いました！**

### ▼講義と捕獲体験での先生のご意見

**《ゲンジボタルの生息環境》**

・新中島橋から今村堰までの左岸（オアシス）は、コンクリートの護岸ではなく土砂や砂でできた天然の河岸であり、ゲンジボタルの生息環境が整っている。現段階では護岸を整備せず、蛹化場所となる土の河岸を保全した方が良い。

・ゲンジボタルは、生息地域によって光り方などの特性が異なり、別の場所から持ってきても繁殖が上手く行かず、数年でいなくなってしまう。生物全般に言えるが、ゲンジボタルもヘイケボタルもカワニナも他の地区から移入してはいけない。

**《オオカナダモの除去》**

・オオカナダモは、魚類にとって隠れ場となる良い点もあるが、地域の景観や利用する上で困っているのであれば、地域として除去しても良いのではないか。

**《ヨシ刈りの時期とゲンジボタルへの影響》**

・ヨシは、ゲンジボタルの幼虫が陸上生活に入る3月から土中の水分量を一定に保つために必要であり、成虫が飛翔・産卵する6月まで生息場として必要であるため、場所によってはこの期間の伐採を避けた方が良い。

・維持管理や景観上で刈る必要がある場合は、ゲンジボタルが陸上生活に入る3～6月は避けて、7～2月に刈れば影響は小さいと考えられる。

## 今後のスケジュール

第7回ワークショップは、令和6年10月末ごろを予定しています。

問い合わせ先：厳木市民センター（TEL：53－7110、FAX：63－3120）

# 厳木川中島地区かわまちづくり ワークショップニュース 7号

厳木川中島地区では、「かわ」と「まち」が一体となったかわまちづくりを目指し、住民の皆さんとともにかわまちづくり計画をつくってきました。今後は、かわまちづくり計画の実現に向けた具体的な整備内容について話し合っていきます。
この「ワークショップニュース」では、その様子をお知らせしていきます。今回は第7号です！

## かわまちづくりとは

- ✓ 「かわまちづくり」とは、『河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取り組み』のことです。
- ✓ かわまちづくりでは、地域らしさを活かした水辺や賑わいのある水辺、暮らしに寄り添う水辺がうまれています。
- ✓ かわまちづくりには支援制度があり、この制度に基づく**「厳木川中島地区かわまちづくり計画」が、令和6年8月8日に新規登録**されました！

▼登録証

## 第7回 「階段や散策路などの整備施設の基本的な条件を議論しよう」

### 実施概要

これまでの振り返りと、第5回・第6回ワークショップでの議論を反映した整備施設の設計案（第1案）を踏まえ、①厳木コミュニティセンターエリア、②川リンピックエリア、③どんど焼きエリアの3つのエリアについて、グループワーク形式で、整備施設ごとの基本的な条件について意見をいただきました。

**日時：令和7年1月19日（日）**
**9：30～12：00**
**場所：中島集会所**
**参加者：27名**

プログラム

| | |
|---|---|
| 09：30 | 開会 |
| 09：35 | 全体説明<br>・事業進捗状況<br>・かわまちづくりの取組状況<br>・本日の開催目的<br>・厳木川中島地区かわまちづくり計画（整備施設の設計条件） |
| 09：50 | グループワーク<br>・整備施設の基本的な条件を議論しよう |
| 11：20 | 発表 |
| 11：40 | 全体とりまとめ |
| 12：00 | 閉会 |

「かわまちづくり」計画登録や今年度実施した取組の報告が盛いだくさん！

# 整備施設の基本的な条件について各班の議論を発表

各班で考えた整備施設の基本的な条件について発表していただきました！

第7回ワークショップでの主な意見をご紹介！

**【厳木コミュニティセンターエリア】**

**■スロープ**

- 途中に階段があれば便利、救助にも使える。
- 車いすで自力で上り下りするには手すりが無いと難しい。車いすに乗ってどのくらいの勾配なら上がれるかを体験した方が良い。
- 一般車両が入らないよう、通常時はポール等で入り口の幅を狭めてはどうか。
- 逆坂路だと土砂や落ち葉が溜まりやすいのではないか。急な増水時には水位が速く上がって危ないのではないか。

**■散策路**

- 浸水しないような高さにして、土砂や落ち葉が溜まりづらくしてほしい。維持管理しやすくしてほしい。
- 今村堰の下からスロープで上がるようにできれば、散策路の平場が不要になり、川幅が狭くなって急流になったり土砂が溜まりやすくなることもないのではないか。
- カラー舗装にしてほしい。
- 落水の勢いが強いので、散策路を歩く人が濡れる。

**■河道整生**

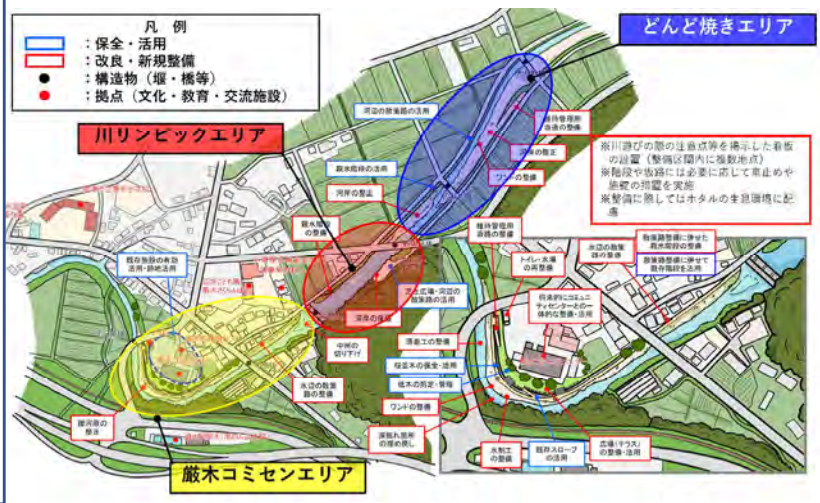
- 落差工の石は大水でも流れないような大きさ・方法で設置することが必要。
- 今村堰の直下流の中洲を除去し、土砂が溜まらないようにしてほしい。

**【川リンピックエリア】**

- ホタルを鑑賞できるようにベンチを置くか、階段の幅を広げてはどうか。
- 川の中に下りるための階段を自然素材でも良いので整備できないか。
- 河床に溜まっている大きい石を除去して使用できないか。

**【どんど焼きエリア】**

- 既設階段の勾配を緩くしないと危ない。
- 一般車両が入らないよう、通常時はスロープの入り口を狭めてはどうか。
- トンボや魚類の生息環境を守りながら、一部や段階的でも良いので、下流のオオカナダモが繁茂しなくなるくらいに浚渫し、川の流れを良くして欲しい。




## 今後のスケジュール

今回頂いた意見を踏まえ、整備施設の設計案（第２案）の検討を進めます。

第8回ワークショップは、令和7年4月以降を予定しています。

問い合わせ先：厳木市民センター（TEL：53－7110、FAX：63－3120）

# 厳木川中島地区かわまちづくり ワークショップニュース 8号

厳木川中島地区では、「かわ」と「まち」が一体となったかわまちづくりを目指し、住民の皆さんとともにかわまちづくり計画をつくってきました。今後は、かわまちづくり計画の実現に向けた具体的な整備内容について話し合っていきます。
この「ワークショップニュース」では、その様子をお知らせしていきます。今回は第8号です！

## かわまちづくりとは

- ✓ 「かわまちづくり」とは、『河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取り組み』のことです。
- ✓ かわまちづくりでは、地域らしさを活かした水辺や賑わいのある水辺、暮らしに寄り添う水辺がうまれています。
- ✓ かわまちづくりには支援制度があり、この制度に基づく**「厳木川中島地区かわまちづくり計画」が、令和6年8月8日に新規登録**されました！

▼登録証

## 第8回 「整備施設の予備設計について意見交換しよう」

### 実施概要

これまでの振り返りと、第7回ワークショップでの議論を反映した整備施設の予備設計案を踏まえ、厳木コミュニティセンターエリアのコミュニティセンター前スロープ、散策路、今村堰下流のスロープの３か所の整備について、グループワーク形式で、予備設計に対する意見をいただきました。
また、実際に現地で整備箇所を確認したことで、議論が深まりました。

**日時：令和7年3月16日（日）**
**9：30～12：00**
**場所：中島集会所**
**参加者：28名**

ワークショップスタート！！

説明を熱心に

整備施設の予備設計の説明を聞く皆さん！

プログラム

| | |
|---|---|
| 09：30 | 開会 |
| 09：35 | 全体説明<br>・第7回WSの結果報告と対応<br>・本日の開催目的<br>・厳木川中島地区かわまちづくり計画（整備施設の予備設計） |
| 10：35 | 現地視察・グループワーク<br>・整備施設の予備設計について意見交換をしよう |
| 11：20 | 発表 |
| 11：40 | 全体とりまとめ |
| 12：00 | 閉会 |

整備施設の予備設計について現地で確認！

# 整備施設の予備設計について各班で意見交換を行い発表

各班で議論した予備設計に対する改善・要望などの意見を発表していただきました！

第8回ワークショップでの主な意見をご紹介！

**■コミュニティセンター前スロープ**
- **下河原橋まで散策路を伸ばして上がれるようにできないか。今の場所だと道の駅から遠い。**
- **手すりが途中で切れてしまうのであれば階段は不要。**

**■散策路**
- **堰下の景観が良いので、堰の近くまで散策路を伸ばせないか。スロープは堰よりも少し下流側で良い。**

**■今村堰下流のスロープ**
- **既設階段をスロープ化するのではなく、もう少し上流の使っていない畑の所を出入口にしてスロープ化した方が、住宅のそばや駐車場を通り抜けることもなく使いやすい。**
- **既設階段の位置を出入口にすると、居住エリアを動画で撮影してインターネットに投稿されやすくなるので心配。**
- **幅の狭い既設階段から降りて直角に曲がってスロープを降りるとなると、子どもを載せたバギーやカートは扱い辛い。**

**吉田先生のアドバイス**

- **ヨシは長く伸びると足に絡まって歩きづらいほか、ごみなどが溜まりやすいため草刈りが必要だが、生物から見ると、稚魚や小動物が生息しやすい環境になっている。**
- **すべてを刈るのではなく、少し残さなければせっかく多くの生物が生息している良い環境が失われてしまう。今後も丁寧に議論を重ねながら、利点と弊害を見ながらうまく残してほしい。**

## 今後のスケジュール

今回頂いた意見を踏まえ、整備施設の予備設計（修正案）の検討を進めます。
第9回ワークショップは、令和7年4月以降を予定しています。

問い合わせ先：厳木市民センター（TEL：53－7110、FAX：63－3120）